

平成 30 年 2 月 22 日掲載

<子供たちに税の使途について考える機会を提供した好事例>

税に込められた想いを伝える租税教育活動

直方法人会（福岡）

<活動対象> 小学 3～6 年生、中学 1～3 年生、高校 2 年生

<活動の概要>

- ・租税教育で本当に伝えなくてはならないことが、「税の本質が『思いやりの心』」と考え、税の種類や使途だけではなく、税に込められた想いが集まって出来ている私達の生活や社会への尊重と持続を伝える租税教育活動を実施。
- ・小学生向けイベント「こころをつなごう！くらじっ子」では、誰かを想う素晴らしさを寸劇で理解した上で、税金で運営している施設や自衛隊等を見学。
- ・また、小・中学校での税金教室では青年部会員の町や未来を想う気持ちと誰かにみんなも「想われている」ことをオリジナルのテーマや内容で税を通して伝えた。地域の財政状況を市役所や税務署と合同の財政勉強会で街づくりと税の実態を認識してもらった。
- ・高校生向けの授業では恩恵を受ける側から支える側になること、社会への税の使途をしっかりと判断すること、その責任として選挙権の行使が重要であることを伝えた。

<参考資料>

「租税教育活動」事例発表プレゼンテーション

<摘要>

特になし

<出典>

平成 29 年度租税教育活動プレゼンテーション（高知大会）より

2. 租税教育活動の特徴（地域特性を背景にしたキーワード）

必死豆炭

キーワード①

必死豆炭
 ……炭鉱の言葉で、小さな豆炭でも本物の石炭に負けずに燃える様から転じて、「やる時は本気で」「誰にも負けない頑張り」を意味する言葉

この想いから『租税教室』『租税教育イベント』
 創意工夫・常に進化

歴史～継続～

キーワード②

歴史～継続～
 延べ
5,000人
 参加

実績

『租税教室』『租税教育イベント』
 10年以上継続開催

くらじ

キーワード③

「くじら」じゃないよ「くらじ」だよ
 ……古くからの地域名称

『租税教室』『租税教育イベント』
 活用により
 地域との一体感・
 青年部の連帯・地域振興

数多くの租税教育活動を実践し、創意工夫を重ね、地域振興願い続けてきた結果、直方法人会が本当に伝えたいことが明確になったのです。

それは

租税教室のDVD『マリンと大和 不思議な日曜日』の中で、大和君が「税」には「思いやりの心」が込められていることに気づき、3つめのお願いを「自分の為」でなく「誰かの幸せの為」に使うこと。

私たちが伝えなければいけないこと

自分さえよければ
自分の幸せ

→

誰かの為に
誰かの幸せ

「世界中のゲームが欲しい!」
 「テレビで見た火事が起こらないように!」

私たちが伝えなければいけないこと

『**税**』
 =
 誰かを大切に想う気持ち
「思いやり」の心

世代を越えて受け継がれる税の恩恵

私たちの生活は、古くからの人が未来の私達を大切に想い、その気持ちが税となって出来たもの。



私達は「**税には税額以上の価値がある**」
 ことを伝える租税教育を行っています。

3. 税に込められた「想い」を伝える租税教育活動の具体的な取組事例 - 1

イベント「ところをつなごう！くらじっ子」

平成19年より夏休みに継続開催。今年で10回目を迎える。

対象：小学生とそのご家族（200名程度）

累計参加総数1,730名

内容：小学生とそのご家族も一緒に、列車やバスを貸し切り、自衛隊など税金の活躍の場を見学しつつ、クイズで楽しく税を学ぶ日帰り研修旅行。出発式には例年、税務署長や市長等もご参加戴きます。

従来は・・・

すぐに出発、やっていたのは名ばかりの税金クイズのみ



- 最初に、小学生と家族の前で租税教室を開催！！
- 税に込められた「想い」がより伝わるよう、青年部会員が制作・主演の寸劇を披露することに！！

皆さんは童話の名作『泣いた赤鬼』をご存知ですか？

友達の願いを叶えるべく悪者になってくれた青鬼の「想い」に気付いた赤鬼は、青鬼の「想い」に感謝しつつ、次は自分が「誰かの為」に行動します…。

最初に小学生・家族の前で「租税教室」を開催



イベント「ところをつなごうくらじっ子」
「誰かの想い」を伝える「租税教室」～「泣いた赤鬼」寸劇



イベント「ところをつなごうくらじっ子」
「誰かの想い」を伝える「租税教室」～「泣いた赤鬼」寸劇



皆さんの周りにも、青鬼と同じ、誰かの「想い」が存在していませんか？

いよいよ出発！！ 税の使われ方や誰かの「想い」を体験しに行きます。

- 昨年の熊本地震や今年の九州北部豪雨。その際に救援活動を実施した自衛隊を訪問。
- 自衛隊の活動も「誰かを大切に想う気持ち」で成り立っていることを学ぶ。

イベント「ところをつなごうくらじっ子」
「誰かを大切に想う気持ち」を伝える「自衛隊訪問」



イベント「ところをつなごうくらじっ子」
「誰かを大切に想う気持ち」を伝える「自衛隊訪問」



イベント「ところをつなごうくらじっ子」
「誰かを大切に想う気持ち」を伝える「自衛隊訪問」



自衛隊員インタビュー



『単に仕事ではなく誰かを助けたいという気持ちで…』

保護者インタビュー



『これまで「誰かの為」という意識で税金を納めたことが無かったので…』

3. 税に込められた「想い」を伝える租税教育活動の具体的な取組事例 - 2

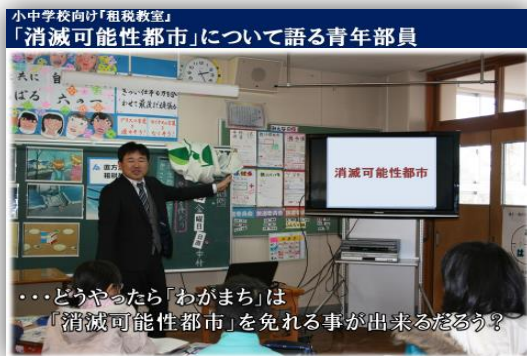
小中学校向けの租税教室

- (1) 小学校向け租税教室（平成20年より実施）
⇒ 参加者：1,497名／30校
- (2) 中学校向け租税教室（平成26年より実施）
⇒ 参加者：623名／5校

従来は・・・
講師は違って、同じ教材・同じ内容の租税教室



○商売や年齢の違う青年部会員の「誰かを大切に想う気持ち」は多種多様。
⇒ 講師ごとのオリジナルな視点で、違う内容を実施！！
一人ひとりが伝えたい「想う気持ち」を、自分の言葉で話す。



高校向けの租税教室

参加者：362名／4校
内容：オリジナル教材を用いて実施
高校向け租税教室の実施する前に・・・



○市役所の税務課や税務署、親会と一緒に財政勉強会を開催！！
地域ごとの財政状況や、税の用途について青年部会員がしっかりと学ぶ。

いよいよ、本番の高校向け租税教室！

○税に込められた「誰かを大切に想う気持ち」に気付くだけでなく、
近い将来、社会人として「みんなを支える責任」があることを認識してもらう。
○自分たちの納めた「税」を活躍させるべく「選挙権」行使の重要性についても伝える。

高校向け「租税教室」で伝えなければならないこと

税の本質
『誰かを大切に想う気持ち』
を伝えること

↑小・中
↓高

＋「恩恵を受ける」側から
『みんなを支える』側へ

高校向け「租税教室」

税金を、社会を、みんなを創る税金

オリジナル教材を作成し挑む！

高校向け「租税教室」のオリジナル教材一部抜粋

国家
社会
家庭
福祉
教育

税の用途を選択
選挙権